

優秀賞 「食事とコミュニケーション」

智辯学園高等学校 1年 若井 健也

僕は食事が好きです。おそらく、毎日お母さんが一生懸命にお弁当も夕食も作ってくれて、その上弟達とその日起きた出来事などを話し合ったり、昼食時には友達と一緒に食事を囲んで楽しくごはんを食べているからだと思います。皆で食べた方がおいしいと言われてたりしますが、本当にそうだと僕は思います。

しかし、僕の家では家族全員で食事を囲める機会がほとんどありません。なぜ、無いのかというと父が単身赴任で仕事に行っていて家にいることがとても少ないからです。

父は、僕達家族のために一日一日、全力で働いてくれています。僕も、弟達も父がこうやって頑張ってくれていることで、学校に行き勉強することができ、家でテレビやクーラーを使えたり、当然食事を朝、昼、晩と毎日しっかり摂ることができる幸せな生活を送れています。しかし、父は一生懸命働いているにも関わらず、あまりおいしい食事を食べられず、単身赴任先で宿泊している部屋は狭く、テレビもありません。父は本当に苦労して頑張っています。また、僕の父の仕事は料理人です。朝早くから夜遅くまで働いています。人に料理を提供しているので、食の大切さ、食のありがたさを誰よりも分かっている人だと思います。でも、あまりいい物を食べられない父に対して僕は申し訳ないと思っています。そこで、父に何か食べたい物はあるのかと聞きました。すると父は、家で母の作った手料理を皆で食べたいと言いました。

それから父が帰ってきたある日、皆で食卓を囲みました。僕は父が料理人で舌が普通の人よりもいいので、もっと高級な物を食べたいと言うのかと思っていました。しかし食事を始めるとそんな事も忘れ、皆で色んな事を話し合い、ゆっくりと楽しく食事ができました。すると、仕事で疲れが溜まり、体調が悪くなっていた父が、前よりも元気になり、とても笑顔でした。

この出来事を通して感じた事、それは食事を皆で食べる事は、一人一人にとってたくさん良い事があるんだという事です。自分も久しぶりに父とたくさん喋ることができてとても楽しかったです。食事はただ空腹を満たすことだけが目的ではない。それを分かった今、これからは食事に対して、今以上に感謝して楽しみながら食べて行こうと思います。